

☆今日までの、諸家の西夏語研究を対照可能とする

電腦処理 西夏文字諸解対照表(稿)

中嶋 幹起
今井 健二 編著
高橋 まり代

- ★世界に先駆けて開発された、西夏文字のコンピューター処理により、諸家の西夏語研究を対照する。
- ★諸家の字素分類法がまちまちであったが、本書により自分の慣れた方法によって、検索可能とした。
- ★西夏文字の秘密を解き明す有力な手がかりとなる、画期的な研究工具書。

●概要——A4判・上製本・函入・クロス装866頁

●定価——本体価格 **25,000円** + 税

解説

1

われわれの西夏語の研究は、これまでに、

『コンピューターによる西夏文字の研究に向けて』(1996)

『電脳処理 西夏文雑字研究』(1997)

の2つの著作を続刊することによって継続されてきている。

前者は、AA研に客員教授としてお招きした中央研究院歴史語言研究所の龔煌城教授が、1991年の9月から1年間にわたり、われわれを西夏文字の研究へと導いてくださったのを契機に、その後約5年を費やして、西夏文字総数6000余のフォントを作製し、リストにしたものである。その際、依拠したのは『西夏語文法』(ソフロノフ著)の巻末の文字表であった。それは、収録字数が最も多い点と、『同音』『文海』に対応するインデックスが付されているという点が有益だからである。さらにこの他に、『同音』及び『番漢合時掌中珠』の情報ももらった西田龍雄教授の著作をソフロノフの文字表と比較し、『西夏語の研究』の巻末の「西夏文字小字典」にある字のうち、字形が他と異なるものを補足して加えた。

われわれの作製した西夏文字フォントにはAA研の仮コードがつけられ、その他の情報は加えることなく『コンピューターによる西夏文字の研究に向けて』と題し、リストの形式で提示した。しかし、われわれはその時点で、公表することはなかったが、ソフロノフ教授の『同音』と『文海』及び西田龍雄教授の『同音』のそれぞれのデータを入力してコンピューターに蓄積しておくことも忘れなかった。

後者の『電脳処理 西夏文雑字研究』は、西夏人の編纂した単語集『雑字』(『番漢合時掌中珠』が漢語と西夏語を対照させた単語集である一方、『雑字』は西夏語のみによる単語集である)を解説し、その内容についてさまざまな角度から研究したものである。これは、中国を代表する声望高き西夏学者、李範文教授を1996年5月から8月までAA研にお招きして教をいただきながら共同研究をおこなった時の成果である。

われわれは、李範文教授から『番漢合時掌中珠』を学んだ後、『雑字』を共同研究するという得難い体験をもつことができた。このことによって、西夏人自身にも筆の誤りがあるとの李範文教授の指摘に驚かされつつ、前年のフォント・リストの文字に修正を加えた。

今年度に入って、われわれはさっそく李範文教授の『同音研究』と史金波教授等の『文海研究』を研究対象とした。西夏人自らの手によって編纂された『同音』と『文海』の文献二種が、西夏文字の解説においてもっとも根本となるものであることはいままでの『同音』が韻書の性格を備えている一方、『文海』は韻書、字書それに辞書の性格を兼ね備えている。李範文、史金波両教授は書名こそ控えめに『同音』あるいは『文海』の一書を掲げているにすぎないが、いずれも、実は二書ともに精通していなければ研究を成し遂げられないものであって、内容は真に充実している。李範文教授は1997年秋には『夏漢字典』を刊行されて早速送って下さり、われわれが本書で利用できたことも深く感謝しなければならないことである。

2

UCODE 1*** 2--- 3----- 4----- 5-----

Table with 6 columns: UCODE, 1***, 2---, 3-----, 4-----, 5-----. Rows contain various characters and their corresponding codes and hex values.

対照表の見方
以下の
1. AA研コードを基準とした対照表
2. 『夏漢字典』のテキストを基準とした対照表
3. 『西夏語文法』(ソフロノフ著)巻末の文字表を基準とした対照表
4. 『西夏語の研究』(西田龍雄著)のコードを基準とした対照表
5. 『文海』(史金波等著)の韻の順を基準とした対照表
6. 『文海』(史金波等著)のテキストを基準とした対照表
7. 『同音』(李範文著)のテキストを基準とした対照表
では、左端の西夏文字から右に向かって、
(1) AA研コード
(2) 『夏漢字典』のコード
(3) 『西夏語文法』のコード
(4) 『西夏語の研究』のコード
(5) 『文海』のコード
(6) 『同音』のコード
の順で並べられている。これらはコンピューター処理によって編集がなされているため、原文とは多少異なるコードをつけている。
『西夏語の研究』のコードの、例えば0010-0510は、同書の巻末にある「西夏文字小字典」の文字に付されたコード1-051を表している。
『文海』のコードの、例えば1.01(F05A31)は、1.01により平声(1)第1韻(01)を表し、(F05A31)によって、原文『文海』の平声部分(これをFで表す。雑類はRによって表している)、第5頁(05)、第1面(A)、第3行目(3)、第1字目(1)の字であることを表している。また、『文海』は前半の平声部分と、後半の雑類部分とがあり、平声部分は韻母の順、雑類部分は声母の順になっている。そのため雑類を韻母の順に組み換えた対照表5と、テキストのままの対照表6の2種を作成した。
『同音』のコードの、例えば、1-0010/1-001(O2A51)は、1-0010により1品重唇音(1)、小類1(0010)を表し、/1-001によりソフロノフ教授の分類を表し、(O2A51)によって、原文『同音』の第2頁(02)、第1面(A)、第5行目(5)、第1字目(1)の字であることを表している。なお今回のソートは、ソフロノフ教授の分類を参考にすると留めて読みとばした形、この例で言えば1-0010(O2A51)という形で行っている。
1996年の時点ではフォントを作製したが、その後1つの文字だとわかったものは(<AA研コード)で、~番から寄せる(>AA研コード)で、~番に送る[この場合](<あるいは>AA研コード?)で、疑わしいものを表わす。これに関連して、*で該当文字がないことを示し、@で異体字あるいは誤字を示し、-で他のコードへの転記を示す。

3

〈編著者紹介〉

中嶋 幹起

1942年生まれ 東京外国語大学 アジア・アフリカ言語文化研究所 教授 (文学博士)

今井 健二

1957年生まれ 東京外国語大学 アジア・アフリカ言語文化研究所 情報システム係長

高橋まり代

1957年生まれ 東京外国語大学 アジア・アフリカ言語文化研究所 教務補佐員

●関連図書

継続刊行中

電腦処理 御製増訂清文鑑

中嶋幹起 編/今井健二・高橋まり代 協力
各冊——B5判・並製

清朝時代に編纂された満州語辞典の基本となる『御製増訂清文鑑』の語彙を、コンピュータ処理し索引を作成。本書は、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所の全面的協力を得て、「満文索引」「清代支那語音索引」「現代中国語索引」を作成。逐次刊行予定。

第2冊〔第6巻～第9巻〕

382頁・定価(本体価格8,500円+税) / '94年3月刊

第3冊〔第10～第14巻〕

505頁・定価(本体価格12,000円+税) / '95年5月刊

第4冊〔第15巻～第18巻〕

364頁・定価(本体価格8,500円+税) / '96年12月刊

第5冊〔第19巻～第22巻〕

390頁・定価(本体価格8,500円+税) / '96年12月刊

第6冊〔第23巻～第26巻〕

408頁・定価(本体価格8,500円+税) / '98年6月刊

第7冊〔第27巻～第30巻〕

353頁・定価(本体価格8,500円+税) / '98年6月刊

電腦処理 西夏文雑字研究

李 範文・中嶋 幹起 編著

大塚秀明・今井健二・高橋まり代 協力

A4判・上製本・函入・408頁

定価(本体価格18,000円+税)

研究編

1. 西夏文『雑字』の来歴と版本
2. 西夏文『雑字』と漢文本『雑字』との比較
 - (1) 編集体裁の相違
 - (2) 編集内容の相違
3. 西夏文『雑字』の特徴
 - (1) 体裁から見た『孝経』三才の影響
 - (2) 内容から見た『爾雅』の影響
 - (3) 特徴をもった西夏タングート姓氏リスト
 - (4) 特徴をもった西夏人名リスト
 - (5) 特徴をもった西夏の親族称谓
4. 西夏文『雑字』に反映された問題
 - (1) 一～八についての問題
 - (2) 人体部“木梳”についての問題
 - (3) “置耳”“置腰”についての問題
 - (4) 訳音についての問題
5. 西夏文『雑字』訳文
6. 西夏文『雑字』注解
7. 李範文教授原文
8. 龔焯城教授推定による西夏語の音韻体系

資料編

1. 西夏文『雑字』本文影印
2. 西夏文『雑字』電腦処理
3. 漢語拼音檢字索引
4. 西夏字音檢字索引
5. A A 研檢字索引

振替
 FTEL 東京都文京区向丘一丁目一三三番地
 AX 〇〇三三三八一四三三
 〇〇一六〇二九四〇八四
 〇〇一三三八一四三三

不二出版

表示価格は全て税別